

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑(1Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・登呂遺跡公園が目前にあり、とても環境が良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。 ・職員教育に力を入れており、資格取得・研修などでスキルアップを図り、地域に貢献できるグループホームを目指しています。 ・専門コンサルタントを立て、職員の意見収集、労働環境、税務の整備を行い事業所の安定を図っています。 ・利用者様への支援として外出の機会多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議はコロナ禍の影響で書面開催となっておりますが、家族には職員の接遇を含み運営方法についてのアンケート(質問シート)を同封しています。さらに開催日と内容を一覧表にまとめ、「議題に上げたことが実施されたのか」といった経過確認もできるようにしており、取組みが綿密に成っています。介護福祉士は14名との驚きの数字を誇り、これまで職員育成に力を注いできただけあって、ユニットの副リーダーが年間研修計画を作成するまでに育っており、今後は他の副リーダー3名にも資質を活かした役割を担ってもらいたいとして、期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 2274200639					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。 会議などでも理念の基本を話します。 ユニット会議の資料にも理念を記載し意識して貰える様にしてあります。	事業所の取組みについて見直しを図り、理念と方針の変更に至っています。例えば「地域の方々との交流を大切に～」という点はコンパクトに「地域貢献」との言葉をつかうなど、方針と理念がわかりやすいものになっています。	現在使用のパンフレットに旧の理念が記載されていますので、代替となる紙面を挟み込むなど工夫を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	登呂公園の散歩が主ですが、運営会や登呂祭りを含めた地域との交流がコロナの影響で中止となり交流の機会がほとんどありません	自治会の回覧板は廻ってきてはませんが、ゴミだしネットの片付け等地域の一員としての役割は担っています。コロナ禍で例年の登呂祭りへの出店は今年も断念しており、交流は縮小の一途を辿っていますが、散歩では挨拶を交わす関係が変わらずあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022	運営会議を中心として情報発信をしています。 民生委員・町内役員・地域包括等と意見交換を行い、認知症や介護の考え方や、やよい苑の現状を発信し、疑問・質問などにも応えていましたが、コロナの感染対策の為交流の機会が無くなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議もコロナ感染防止の為対面式会議が出来ていません。	コロナ対応で運営推進会議は書面開催となっておりますが、自治会長や民生委員などメンバーには内部でまとめた報告書を届けています。また職員の接遇を含み、運営方法についてのアンケート(質問シート)を家族には同封しています。	2点期待します。①家族以外のメンバーにも返信シートを同封して書面上で意見交換をおこなう ②ヒヤリハットの状況は内部で整理されていますが、メンバーに送付する書面にも集約して記載する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。 又、必要に応じて生活支援課、介護保健課、社会福祉協議会に相談や助言を頂く事があります。	指定更新の申請書類の提出をはじめ必要に応じて静岡市に出向くとともに、市からの配信メールは必ず確認しています。また抗原検査キットも届いており、4ヶ月にわたって1週間毎に職員が継続検査をおこない、記録のうえ提出しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し身体拘束の防止に努めている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1回定期開催されるほか、かきむしりにおけるミトン使用についてなどは臨時開催しており、速やかに原因と対策を検討するという安心な体制にあります。また最近入社した職員の研修実施も適切に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供する事により、虐待防止徹底を図っています。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により教育しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は、管理者及び事務長が対応し利用者の御家族にご理解・納得を得られる様に説明いたします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会での意見やアンケートを、運営会や各ユニット会議に反映させていましたが、現在全体運営会は、中止となっています。またコロナの感染対策の為、ご家族の面会を制限しているので、電話やメールでご家族の意見やお気持ちを聞ける機会を作っています。	全体に向けた「やよい苑 便り(毎月発行)」とともに、一筆箋に近況を綴ったものを担当職員が個別に家族へ届けています。また、未だ運用者は2家族のみですが、ウイズコロナの一環としてQRコードを使ったLINE面会も導入しています。	現在の通信は2ユニットまとめてA4版1枚です。写真掲載も限られスペース的に十分な情報が入りきれないため、可能であればA3版でユニット毎の制作となることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させています。その他個別面談に於いて、意見を聞き取り運営に反映させています。	ユニット会議の翌週にリーダー会議(サブリーダー4名、管理者、事務長、事務員、コンサルタント)をおこなうサイクルを定着させ、職員には経営を身近に感じてもらえる仕組みとし、さらに各取組みに予算をつけて職員に運用させてもいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握し対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等で年間教育計画に沿って職員教育に取り組んでいます。個別面接を通して個々の希望にも配慮していますが、資格取得以外の外部教育の機会に乏しいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通じて勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っていましたが、現在はコロナの感染対策の為行われていませんが、関連施設等の交流は実施されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを生かし本人との信頼関係を築くよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント作成時 要望等を聞き取ると同時に出来る事できないことも含め十分な説明を行い身体関係の構築の努力をする。毎月担当者から家族に手紙を書いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを生かし対応を図る。その後はケアプラン説明を事前に電話で行う事により、意向や希望を伺いながら 様子の変化も常に報告相談できる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランを活かし利用者様の意向に沿った介護ができるよう考慮する。ユニット会議に於いて情報の共有を図ります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランと活かし家族と問題点も共有して、お互いに協力しながら援助できるよう考慮しています。 様子の変化には常に報告連絡を行うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族の間診票をもって、なじみの情報を聴きます。その後は、ケアプランを活かし、ご家族も協力して頂きながら考慮していきたいと思いますが、最近ではコロナ感染対策の為、面接制限しています。	長年珈琲を愛飲してきた人には、健康にも配慮しつつ日に2、3回を目安に提供しています。また家族から多いときには週1回、少ないときでも月1回の便りが届く人もいて、スムーズなやりとりになるよう職員が支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の興味や関心に配慮しながら、席等を設定したり交流しやすい環境を考慮しています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も連絡を取り合っています。 転所の場合は様子を聞き支援できる情報があれば提供します。退所の場合 初盆にはお花多くさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント及びケアプランにて希望や意向を把握し本人本位を重視して作成しています。 家族からの意向を聞き取り相談しています。	昨年から3名の利用者が新しく入居しています。 新規入居では1ヶ月程暫定の介護計画書を作成のうえ、在宅での暮らしを尊重しつつも此処での生活に慣れてもらえるよう職員総意で気にかけており、当初の情報と食い違いがあればアセスメントに手を加えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に基本情報・家族問診表により、把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報は介護記録の入力や日報により職員間で共有しユニット会議に於いて情報の共有をします。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等にて利用者の状態の把握や問題点を話し合い、各担当者により経過報告提出し介護計画に活かしています。	毎月のユニット会議では全利用者のカンファレンスをおこなっています。また法改正で2ユニットに計画作成担当者は1名でよいことになりましたが、当事業所には8名もの実践者研修修了者がいて人材が潤沢なこともあり、このまま各ユニット1名ずつの配置で進める予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録より経過報告に記載し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位、介護の基本に柔軟な対応をしていく様努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防により外出機会は減少したが、登呂公園等地域の資源を活かし散歩をしたり、玄関先から外を眺めるだけでも和みます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問医は定めていますが、専門医が必要とされる方は、訪問医と連携を図り本人及び家族が納得が得られる様にしています	利用者自身は月2回の受診ですが、訪問診療医院では2名の医師が交替で週2日の小分けでの診療を実施くださるため、医師が事業所に常駐している頻度が高く、突然の熱発対応などでも助けられています。立ちあいは管理者と事務長と定め、記録も残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、Drとは情報共有も含め連携が図られている。利用者が適切に看護が受けられる様、体制は図られている。毎週金曜日9時から行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問Drによって、医療機関と連携し、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化による指針を定め対応しています。	経営方針と経営理念をリニューアルしたことで、「終末ケアの誇りと、為に尽す事に喜びを感じるケアを目指します」が理念に組み込まれ、職員間で共有されています。ただ、救急搬送後に入院先で亡くなるケースが増え、近年の看取り例はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし、防災訓練時応急対応の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を定め年2回防災訓練を実施しています。	AEDが設置されています。防災訓練は年2回の法定を遵守し、春と秋に実施しています。本年5月は非常食を消費するねらいもあり炊き出しをおこない、11月は豪雨による床下浸水設定で2階までの避難待機などに取り組んでいます。	非常食が少なく、ローリングストックと水、米が中心な体制で進めるようですので、米と水でのアレンジレシピ(栄養価の高いお粥とか)を職員間で考案していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に実践努力する。	「言葉が第1歩だよ」と、常に指導していますが、中には親しさを超えて利用者を「ちゃん」呼びする職員もいます。当人への指導は都度おこない、接遇研修も年1回は実施して振り返る機会としていますが、未だ道半ばで悩ましい課題となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく選択肢の中から自己決定できる様な声掛けに努める様していますが、職員が忙しい時、業務を優先してしまう事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基に実践努力していますが、職員不足や利用者の重度化により希望に沿えない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながら利用者様に合った身だしなみを実践する様にしています。家族に協力を頂きながら季節にあった衣類の購入支援をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることをお願いしながら、食事の準備を行い。献立も掲示し楽しみにして頂ける様に心掛けています。	粗刻みを含めると6名、とろみが2名、ミキサー食が1、2名(食事の内容による)と、まずは「安全」を優先して嚥下状態に合わせて提供する一方で、「食の楽しみ」も日々感じてもらいたいとして、土用の丑の日には鰻の蒲焼きなど行事食にも力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理を基本として行っていますので、水分摂取量や食事量は管理していますが、栄養バランスやカロリー計算まではしていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践しています。週に1回歯科受診出来るようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやトイレ誘導により、排泄の失敗が少なくなる様に努めています	屋内の移動にも車いすが必要な人が6名となっていますが、「立位が保てるなら、なるべくトイレ」を励行、身体の機能維持に努めています。また立位が保てたとしても拘縮があると1名介助ではリスクが高いため、職員2名での介助としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については水分摂取や運動に心がけ、特に利用者の体調を把握し、DrやNsと連携を図りながら、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にてゆっくり入って頂けるよう支援していますが、入浴時間を定め対応していますが、特に本人の希望時間があれば優先し対応しています。	週2日の入浴を清潔の目安とし、必要に応じて陰部洗浄をおこない、またお湯も一人ひとり入れ替えて、保清を担保しています。浴剤は使用していませんが、協力医が各自に処方くださった保湿剤で皮膚の乾燥を防いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は設定していません。利用者個々の生活習慣を尊重し休んで頂きます。但し眠りやすい環境づくりは配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が配薬をする様になっていますので、すべての介護職員が薬の管理について把握しています。薬用法や変更は介護記録に記載し一括管理し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等を一緒にやりながら役割をお願いすることにより生きがいや喜びにつながる様に配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染対策として自由な外出が制限されていますが、登呂公園の散歩は継続し、近くのスーパーへの買い物支援は行っています。	登呂公園が目前にあるとの立地にも恵まれ、好天であれば散歩は日常的にあります。また玄関先の外気浴は事業所恒例で、お茶を飲んだり、お菓子を食べたりと茶話会のような日もあります。希望者には買い物同行もおこなっています。	向日葵畑や青葉公園のイルミネーションなど、降りないドライブでの季節感の提供も一考されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に買い物意欲のある方は、近くのストアにて買い物支援を行っています。又お金を持っていないと不安な方には、ご家族と相談して金銭の所持してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのラインのビデオ通話に対応しています。ご本人様が手紙を書きたい時は準備し、住所などの情報を提供します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に応じた飾り付けを各フロアに行い、また清掃により衛生面とエアコンの一括管理により適切な温度に設定します。	コロナで外出機会が減ったこともあり、年中行事は一層配慮しています。コロナが猛威をふるっていた時期にはアルコールでくまなく消毒していたこともありますが、現在は通常の清掃方法に戻っており、コロナの状況によって対応を変えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくお話の出来る利用者様同士を同じテーブルにしたり廊下のソファでお話ができる様、環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族と相談し馴染みのある空間造りに努めています。	車いすの利用が必要となった利用者の居室は、動線を考えつつベッドや家具の配置を替えています。コロナ禍となって「会えないから」と家族写真を届けてもらえた人や、孫が幼稚園で制作した折り紙を飾る部屋もあり、職員が「かわいいね」と声をかけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力に応じて居室トイレ等に誘導できるように表示を工夫しています。廊下やトイレ又は居室に必要な応じ手すりを設けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社 エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑(2Fユニット)		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・登呂遺跡公園が目前にあり、とても環境が良く、地域資源に非常に恵まれたグループホームです。 ・職員教育に力を入れており、資格取得・研修などでスキルアップを図り、地域に貢献できるグループホームを目指しています。 ・専門コンサルタントを立て、職員の意見収集、労働環境、税務の整備を行い事業所の安定を図っています。 ・利用者様への支援として外出の機会多くしており、できる限り毎日、日光浴や散歩へ行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議はコロナ禍の影響で書面開催となっておりますが、家族には職員の接遇を含み運営方法についてのアンケート(質問シート)を同封しています。さらに開催日と内容を一覧表にまとめ、「議題に上げたことが実施されたのか」といった経過確認もできるようにしており、取組みが綿密に成っています。介護福祉士は14名との驚きの数字を誇り、これまで職員育成に力を注いできただけあって、ユニットの副リーダーが年間研修計画を作成するまでに育っており、今後は他の副リーダー3名にも資質を活かした役割を担ってもらいたいとして、期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念I:2274200639					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図る。 会議などでも理念の基本を話します。 ユニット会議の資料にも理念を記載し意識して貰える様にしております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	登呂公園の散歩が主ですが、運営会や登呂祭りを含めた地域との交流がコロナの影響で中止となり交流の機会がほとんどありません		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274200639-00&PrefCd=22&VersionCd=022	運営会議を中心として情報発信をしています。 民生委員・町内役員・地域包括等と意見交換を行い、認知症や介護の考え方や、やよい苑の現状を発信し、疑問・質問などにも応えていましたが、コロナの感染対策の為交流の機会が無くなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議もコロナ感染防止の為対面式会議が出来ていません。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方と連携をとる事により、市との連携を図っています。 又、必要に応じて生活支援課、介護保健課、社会福祉協議会に相談や助言を頂く事があります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し身体拘束の防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習内容を職員に情報提供する事により、虐待防止徹底を図っています。個別面接等も行いながら、職員のメンタルケアを合わせて行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講習内容を職員に情報提供する事により教育しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は、管理者及び事務長が対応し利用者の御家族にご理解・納得を得られる様に説明いたします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会での意見やアンケートを、運営会や各ユニット会議に反映させていましたが、現在全体運営会は、中止となっています。またコロナの感染対策の為、ご家族の面会を制限しているため、電話やメールでご家族の意見やお気持ちを聞ける機会を作っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させています。その他個別面談に於いて、意見を聞き取り運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握し対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の援助及びユニット会議等で年間教育計画に沿って職員教育に取り組んでいます。個別面談を通して個々の希望にも配慮していますが、資格取得以外の外部教育の機会に乏しいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修及び地域グループホーム協議会を通じて勉強の機会やコミュニケーションを図り、サービス向上の取り組みを行っていましたが、現在はコロナの感染対策の為行われていませんが、関連施設等の交流は実施されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを生かし本人との信頼関係を築くよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント作成時 要望等を聞き取ると同時に出来る事できないことも含め十分な説明を行い身体関係の構築の努力をする。毎月担当者から家族に手紙を書いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを生かし対応を図る。その後はケアプラン説明を事前に電話で行う事により、意向や希望を伺いながら 様子の変化も常に報告相談できる様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランを活かし利用者様の意向に沿った介護ができるよう考慮する。ユニット会議に於いて情報の共有を図ります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランと活かし家族と問題点も共有して、お互いに協力しながら援助できるよう考慮しています。 様子の変化には常に報告連絡を行うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族の間診票をもって、なじみの情報を聴きます。その後は、ケアプランを活かし、ご家族も協力して頂きながら考えていきたいと思いますが、最近はコロナ感染対策の為、面接制限しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の興味や関心に配慮しながら、席等を設定したり交流しやすい環境を考慮しています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も連絡を取り合っています。 転所の場合は様子を聞き支援できる情報があれば提供します。退所の場合 初盆にはお花多くさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント及びケアプランにて希望や意向を把握し本人本位を重視して作成しています。 家族からの意向を聞き取り相談しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に基本情報・家族問診表により、把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報は介護記録の入力や日報により職員間で共有しユニット会議に於いて情報の共有をします。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等にて利用者の状態の把握や問題点を話し合い、各担当者により経過報告提出し介護計画に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録より経過報告に記載し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位、介護の基本に柔軟な対応をしていく様努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防により外出機会は減少したが、登呂公園等地域の資源を活かし散歩をしたり、玄関先から外を眺めるだけでも和みます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問医は定めていますが、専門医が必要とされる方は、訪問医と連携を図り本人及び家族が納得が得られる様にしています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、Drとは情報共有も含め連携が図られている。利用者が適切に看護が受けられる様、体制は図られている。毎週金曜日9時から行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問Drによって、医療機関と連携し、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化による指針を定め対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし、防災訓練時応急対応の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を定め年2回防災訓練を実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に実践努力する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく選択肢の中から自己決定できる様な声掛けに努める様していますが 職員が忙しい時、業務を優先してしまう事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基に実践努力していますが、職員不足や利用者の重度化により希望に沿えない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながら利用者様に合った身だしなみを実践する様にしています。 家族に協力を頂きながら季節にあった衣類の購入支援をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることをお願いしながら、食事の準備を行い。献立も掲示し楽しみにして頂ける様に心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理を基本として行っていますので、水分摂取量や食事量は管理していますが、栄養バランスやカロリー計算まではしていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践しています。週に1回歯科受診出来るようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやトイレ誘導により、排泄の失敗が少なくなる様に努めています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については水分摂取や運動に心がけ、特に利用者の体調を把握し、DrやNsと連携を図りながら、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にてゆっくり入って頂けるよう支援していますが、入浴時間を定め対応していますが、特に本人の希望時間があれば優先し対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は設定していません。利用者個々の生活習慣を尊重し休んで頂きます。但し眠りやすい環境づくりは配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が配薬をする様になっていますので、すべての介護職員が薬の管理について把握しています。薬用法や変更は介護記録に記載し一括管理し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等を一緒にやりながら役割をお願いすることにより生きがいや喜びにつながる様に配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対予防対策として自由な外出が制限されていますが、登呂公園の散歩は継続し、近くのスーパーへの買い物支援は行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に買い物意欲のある方は、近くのストアにて買い物支援を行っています。又お金を持っていないと不安な方には、ご家族と相談して金銭の所持してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのラインのビデオ通話に対応しています。ご本人様が手紙を書きたい時は準備し、住所などの情報を提供します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に応じた飾り付けを各フロアに行い、また清掃により衛生面とエアコンの一括管理により適切な温度に設定します。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくお話の出来る利用者様同士を同じテーブルにしたり廊下のソファでお話ができる様、環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族と相談し馴染みのある空間造りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力に応じて居室トイレ等に誘導できるように表示を工夫しています。廊下やトイレ又は居室に必要な応じ手すりを設けています。		